

## 試合前の注意点

- 試合開始前に不適切な行動があれば「プレー出来ないこと（退場相当）」を命じることが出来る。（3条6項 P36）※警告に当たるものはない。
- 権限はフィールドのチェックのためにピッチに入った時から試合が終了してフィールドを離れるまで。
- 用具—ストッキングからソックスに呼称変更。
- アンダーショーツ及びタイツはショーツの主たる色、またはショーツの裾の部分と同じ色。同一チームの競技者が着用する場合、同色のものとする。

## 試合中

- キックオフ、フリーキック、ペナルティーキック、コーナーキック → ボールがけられて明らかに動いた時にインプレーとなる。（キックオフ、フリーキック、コーナーキックはける方向は問わない。）
- 用具の不備でピッチを離れた競技者は主審の許可があればインプレー中に復帰できる。
- 交代要員、役員が行った不適切行為が直接フリーキックになる場合が新設された。
- アディショナルタイムに「競技会規定で認められる、飲水やその他の医療上の理由による停止」の2点が追加。
- ペナルティーエリアにおける決定的な得点の阻止する反則があった場合、「明らかにボールをプレーする、または、挑むことを試みた」場合は警告（イエローカード）とする。（3重罰の軽減）

## オフサイド

- ハーフウェーラインはオフサイド対象区域から除外
- オフサイド判断時にゴールキーパーを含むすべての競技者の手及び腕はふくまれない。
- 主審の承認を得ずフィールドを離れた守備側競技者は出たゴールラインまたはタッチライン上にいるものとみなす。（アウトオブプレーになるか守備側競技者がハーフウェーラインに向かってプレーし、ペナルティーエリアからでるまで。その後は外して考える。復帰した場合もゴールラインにいるものとする。）
- 副審がフラッグを上げるタイミングはボールがけられた時にいた位置ではなく、プレーする、関わる等の行為があった位置。（戻りオフサイドの場合自分のハーフの場合あり）

## ペナルティーキック

- キーパーが反則（キック前にゴールラインを離れる）でノーゴール→PK やり直し＋警告（P97）
- キッカーの不正なフェイント→間接フリーキック＋キッカーに警告。
- 特定されていないキッカーがけった。→間接フリーキック＋特定されていないキッカーに警告。
- 警告に該当する場合は必ず警告する必要あり。

## スローイン

- スローワーを不正に惑わせたりする相手競技者は（スローインが行われる地点から2 m（2ヤード）以内に近寄ることを含む）、反スポーツ的行為で警告される。スローインがすでに行われた場合は、間接フリーキックが与えられる。

## ドロップボール

- ドロップボール時にけり方等について主審から指示はできない。

## ペナルティーマークからのキック

- その他に考慮すべきこと（グラウンド状態、安全など）がない限りコインをトスしてキックを行うゴールを決定する。
- 競技者がフィールドを離れたことで遅らせてはならない。競技者がキックを行うまでに復帰しない場合、その競技者のキックは無効（無得点）となる。
- 7人未満でも続ける。

## 付記

- ゴールキーパーが手または腕でボールを扱っている場合、副審はペナルティーエリア内からボールが出ていないかを注意する。
- コールキーパーがボールを手でコントロールしている時、6秒を超えないように、
  1. 4秒を超えたら、早くプレーをするように促す。（カウントはゼロから行ってください。（0、1、2、3、4「早くしましょう」等の声掛け、5、6）。6をカウントしてしまった時には笛を吹く。
  2. 間接フリーキックで再開する。
  3. U-15以下では、6秒でフリーキックをとられる経験がないゴールキーパーも多いので、教育的なシチュエーションであれば指導的な対応を考慮願います。